

## カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

### ニュースレター（第12回）

#### 新局長、CREATE 事務所視察

先月のニュースレターで教育省再編後の新しい部局についてはお知らせしましたが、再編後、初めて局長が CREATE プロジェクト事務所を訪問され、CDT と話し合いをもたれました。

教師教育訓練局（DTET）のティン・ミョー・チ局長が6月16日（火）に、ミャンマー教育研究局（DMER）のカイン・ミエ局長が6月30日（火）に、忙しい業務の合間を縫って、それぞれ30分～1時間程度の時間を CREATE のための割いてくださいました。ティン・ミョー・チ局長は、一つひとつ CDT の作業を見て回られ、新しい教科書案を手にとりながら、丁寧にコメントされていたのが印象的でした。その中には、「新しい教科書には挿絵や写真が多く使われているので、この内容を学校現場で効果的に教えるには教員用指導書も重要になってくるね」とか、「これらの内容を学習するには新しい教材も必要になってくるね」といった今後の課題に触れたコメントもありました。

他方、カイン・ミエ局長は、CDT 全員に対して、彼らのこれまで1年間の努力を讃えるとともに、カリキュラム及び教科書開発という将来のミャンマーの教育にとって非常に重要な任務を負っていることに自覚と責任、さらにはやりがいを感じてほしいと繰り返し訴えられていました。CDT も真剣なまなざしで局長の話に耳を傾けており、自分たちの業務の責任の大きさを再認識したようです。

局長が直々に CDT に会ってくださるというのは、ミャンマーでは非常に珍しく、その意味でも CDT にとっては、今回の局長の訪問は大きな動機付けになったことは間違いありません。小学校1年生用の教科書開発作業は終盤に入ってきていますが、このモチベーションを維持しながら、頑張ってくれることを期待しています。

#### 承認済のカリキュラム・フレームワークに大きな問題？

先月のニュースレターでも大々的にお伝えしましたように、ようやくカリキュラム・フレームワーク（CF）が今年5月に承認されました。その後、CREATE では承認された CF の原本（ミャンマー語）を入手し、英語への翻訳を行い、その内容を再度確認したのですが、そこで大きな問題があることを発見したのです！！その問題とは、新しいカリキュラムの核となるべき部分が削除されていたのです。教育省担当者からは CF が承認されたという連絡とともに、「（CF の内容は）以前から変わっていない」というコメントも受けていたので、この発見は「寝耳に水」でした。問題と考えられる箇所は以下の3つです。



（上）ティン・ミョー・チ局長による理科 CDT 視察  
（下）カイン・ミエ局長による CDT への講演

### ①「五大能力」の削除

新しいカリキュラムでは、これまでの知識詰め込みの教育を改善するために、習得が求められる能力として新しい能力概念を提唱していました。「知的能力」、「身体的能力」、「道德倫理的能力」、「社会的能力」、「経済的能力」です。これが完全に削除されたのです。

### ②21世紀型スキルの説明の削除

新しいカリキュラムでは、上記の五大能力とあわせてアメリカの P21 の提唱した「21 世紀型スキル」の習得の重要性が前面に打ち出されていました。当然、原案にはこのスキルについての説明が書かれていたのですが、その説明がすべて削除されたのです。このため「21 世紀型スキル」という呼称は残っているものの、このスキルが何を指すのかわからなくなりました。

### ③「すべての教科を平等に扱う」という記述の削除

これまでミャンマーの教科は「主要教科 (Core Curriculum)」と「周辺教科 (Co-Curriculum)」に分けられ、後者は評価が義務付けられていなかったこともあって、地方へ行くとほとんど実施していない学校が多く見られました。そこで、新しいカリキュラムではそのような状況が起こらないように、すべてを主要な教科として平等に扱うようにという記述をしていたのですが、これが削除されてしまいました。

CREATE では、すぐに教育省カリキュラム・アドバイザーであるミン・テイン氏及び教育省担当者に連絡をとってこの理由をお聞きしました。ここで返ってきた回答は、承認をスムーズに進めるために削除した、CF を正式に出版する際には、これらを入れ込むことは可能だということでした。私たちの常識では、一度承認された書類にその後勝手に記述の改訂や追記など不可能だと思うのですが、ミャンマーではそれは全く不可能なことではないようです。ちなみに、教育基本法も昨年 11 月に一度、国会で承認されながら、いざ発効となった矢先に学生デモが起き、その後、再度、内容の再検討が行われたということですから、分からないでもありませんが....

### 教科の英語名が決定！

教育省ミャンマー教育研究局 (DMER) からの 6 月 22 日 (月) 付けメールによれば、初等教育における各教科の英語名が以下のように決定したということです。これを見ると、理科、芸術 (図工・音楽)、道德・公民の三教科において名称が新しくなりました。

**Myanmar**  
**English**  
**Mathematics**  
**Science**  
**Social Studies**  
**Physical Education**  
**Life Skills**  
**Arts (Visual Arts and Performing Arts)**  
**Morality and Civics**

なお、上記名称は 6 月 29 日にカイン・ミエ局長及びカリキュラム・アドバイザーであるミン・テイン氏にも確認済みです。

### 「カリキュラムとジェンダー」ワークショップの開催

6月30日(火) 10:00-12:00にCREATEプロジェクト事務所にてワークショップを開催しました。このワークショップは、「カリキュラムとジェンダー」と題して、教科書開発を行う際にジェンダーの視点からどのようなことに留意しなければならないかということについてCDT自身が考えてくれることを目的に開催したものです。講師には、教育省アドバイザーとして業務に当たっておられるヘレナ・ソルフィン氏(スウェーデンのジェンダー専門家)を迎え、「ジェンダーとは」、「カリキュラムにおけるジェンダーの課題」、「ジェンダーについての認識」といった内容について議論すると同時に、現行のミャンマー教科書から見えるジェンダーについての課題、世界の教科書に見られるジェンダー的配慮などについても考える機会をもちました。

本ワークショップの中で特に印象的だったのは、従来の教科書の多く、特に歴史教科書などは、王様や英雄を中心とした戦闘や支配の物語が中心で、これは男性中心社会の視点から書かれたものとい



うことができる。他方、新しい教科書(スウェーデンの歴史教科書を例示)では、戦闘や支配という主要テーマを扱っていることには変わりはないものの、当時の人々の生活や食事、また王公や貴族の衣食住といった、従来の歴史教科書とは違う視点から社会を見ている、という点でした。

現行CDTの大半は女性で、新しい教科書は彼女たちによって開発されているという点は、他国と事情が少し異なるかもしれませんが、本ワークショップで得た新しい視点を十分に考慮しながら、今後、よりよい教科書開発を進めていってくれることを期待しています。



### 教育省再編のその後

前回のニュースレターで教育省の再編についてお伝えしましたが、それ以降、以下の二つの点で再び新しい動きがありました。

#### ①「ミャンマー試験局」の昇格

ミャンマー試験局が「Board」から「Department」になりました。正式英語名は「Department of Myanmar Examination (DME)」です。

#### ②「技術職業教育局」の追加

大統領の指示により、職業教育を扱う部署が「科学技術省 (Ministry of Science and Technology: MOST)」から教育省に移され、「技術職業教育局 (Department of Technical and Vocational Education: DTVE)」となりました。

文責: 田中義隆 (カリキュラム・チームリーダー)  
編集: 宮原光 (プロジェクト・コーディネーター)